

**CO2 排出量削減
を目指して**

電動車の拡大に向けた エネルギーマネジメントシステムの構築・社会実装に参画

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：永松 文彦）は、Commercial Japan Partnership Technologies 株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：中嶋 裕樹、以下 CJPT）とともに、CO2 排出量削減を目指し、環境にやさしい車両の拡大に向けたエネルギーマネジメントシステムの構築・社会実装に参画いたします。

セブン&アイグループの環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』におけるテーマの 1 つである“CO2 排出量削減”を進めていく上で、「EV トラック」や「FC 小型トラック」などの電気や水素で走る電動車の活用は不可欠です。一方、このような車両を導入するには、コスト、充電・水素充填時間の長さ、充電タイミングが偏ることによる事業所電力ピークの増大など、さまざまな課題があります。このような課題を改善することを目的に、CJPT とともに福島県・東京都における社会実装に参画し、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業※の中で、CO2 排出量削減につながる取り組みを進めます。

今後もさまざまな取り組みを通じ、豊かで持続可能な社会の実現を推進してまいります。

※助成事業名「グリーンイノベーション基金事業／スマートモビリティ社会の構築」

＜概要＞

他 30 社以上の企業とともに、パートナーとして参画いたします。

■実施期間：2023 年 1 月～2029 年度末（予定）

■実施場所：福島県、東京都

■実施内容：

①大規模な電動車の導入（約 580 台※）

②運行管理と一体となったエネルギーマネジメントシステム構築

- i 充電・水素充填タイミングと配送計画の最適化により、効率的な運行を実現させるシステム
- ii 事業所内外含めた全体での需要調整、カートリッジ電池活用による電力需要の平準化

※今回実装における全体の車両数

＜ご参考＞

当社の環境車両の取り組み①



▲店舗配送中のトヨタ自動車「FC 小型トラック」

水素を燃料とする「FC 小型トラック」の取り組みは世界に先駆けてトヨタ自動車株式会社とともに、2019 年 4 月より神奈川県横浜市の共同配送センターにて実証実験を開始しています。2020 年 4 月からは、栃木県佐野市において温度帯の切り替えが可能な車両に変え実証実験を行っています。



▲三菱ふそうの新型「EVトラック」



▲沖縄県をイメージさせる花柄のいすゞ自動車の「EVトラック」

当社の環境車両の取り組み②

「EVトラック」については、三菱ふそうトラック・バス株式会社の車両を2018年2月に東京都・埼玉県・神奈川県で導入を開始しました。

2022年には新型車両に変更し、店舗配送に使用しています。

いすゞ自動車株式会社のご協力のもと、2019年7月より、沖縄県にてEVトラック走行の実証実験を開始しております。

その後、2021年1月より東京都日野市でも実証実験を行っています。

現在、セブン-イレブン店舗へ商品を配送するトラックは約6,200台走行しており、その7割以上がクリーンディーゼル車やハイブリッド車、天然ガス車、EV車などの環境にやさしい車両です（2022年2月末現在）。

今回参画するプロジェクトにおいて、環境にやさしい車両の導入をさらに促進し、さまざまな取り組みを進めながらCO2排出量の削減に努めてまいります。

以上